

事例報告書のまとめ方

2024年2月1日 認定審査会

【基本的事項】

- ・事例報告は全てホームページにて事例登録を行う
- ・疾患分類を適切なものを選択する
- ・題名は40字以内（スペース含む）、本文は1400字以内（スペース含む）で登録する
- ・キーワードを10字以内で3つ記載する ※報告内容に即したものを選択すること

【全体を通して】

- ・年齢、病院・施設、経年など個人特定に繋がる情報の匿名化を厳守する
- ・写真や図表の添付はできない
- ・事例報告では体言止めは使用しない（体言止め：文末を名詞や代名詞で終わること）
例）×「訪問リハでは屋外歩行実施。」→○「訪問リハでは屋外歩行を実施した。」
- ・文末の時制は統一する（過去形「であった」、現在形「である」の混在は避ける）
- ・略語を用いる場合は、正式名称およびフルスペル記載後に略語を記載する
例）①リハビリテーション（以下、リハ） ②Barthel Index（以下、BI）
- ・提出前に、可能な限り第三者の添削を受けるなどして、誤字脱字、不適切な文章表現はないか 十分確認する

1. 事例紹介

- ・年齢や性別、訪問リハを開始するに至った経緯などを記述
- ・年齢は72歳の場合70歳代などと記述、又は70歳代前半などと記述すること
- ・発症起点などの年数はX年とし以後経過が分かるようにX+1年と記載
- ・病院名や地域など個人の特定につながる情報はイニシャルではなく、A病院・B病院など特定されないよう記載する

2. 評価

- ・心身機能、活動、参加、個人因子や環境因子（本人家族の希望や価値観）について目標や方針に関わる項目を簡潔にまとめる
- ・評価結果は主観的にならないよう客観的指標・データを記載する

3. 目標と介入

- ・評価をもとに記入する
- ・本人家族の希望、介護支援専門員の要望だけでなく、評価の結果必要と認めた項目を記入する

4. 経過又は結果

- ・訪問リハの介入により生じた結果・変化について記述する
- ・評価の際に取り上げた項目について経時的に示す
- ・考察の項で使用する材料として使用できるよう書き漏れのないよう注意する
- ・年数などの表記は事例紹介の項で示した通り

5. 考察・まとめ

- ・自身のアプローチを振り返り全体をまとめる
- ・効果があった点やそうでない介入を取り上げてその理由や改善策などに言及する
- ・より良いサービスのために気づいた点についてこれまでの文中から具体的に挙げて示す